

令和 5 年度 川崎市岡本太郎美術館

事業報告・評価書

(令和 6 年 2 月 1 4 日現在)

川崎市岡本太郎美術館

目 次

1 展覧会事業

(1) 企画展	・・・・・・・・・・・・・・・・	1
(2) 常設展	・・・・・・・・・・・・・・・・	8

2 資料収集・整理、調査研究・・・・・・・・・・・・・・・・ 12

3 作品の保存・修復、貸出・・・・・・・・・・・・・・・・ 13

4 普及企画・・・・・・・・・・・・・・・・ 15

5 広報活動・・・・・・・・・・・・・・・・ 26

6 施設・設備の整備・・・・・・・・・・・・・・・・ 28

令和5年度事業経過・報告

1 展覧会事業

(1) 企画展

事業名	「顕神の夢 ー幻視の表現者ー 村山槐多、関根正二から現代まで」展
会期	令和5年4月29日（土・祝）～6月25日（日）
来館者数	入館者数：17,111人（349.2人/日）※常設展来館者数含む
目標	自己を超えた神的な存在への憧れや思慕、畏怖を制作の原動力とする作家を、「幻視」をキーワードに読み解くことで、従来の美術史観であるモダニズムの尺度から零れ落ちた作家・作品に光をあてると同時に、既に評価が定まった作家・作品についても再評価を試みる。 これまで近現代の美術を新たな視点から検証する展覧会は数多く企画されてきた。しかし、前近代的な神秘的・宗教的な要素から美術の流れを読み解く作業はあまりなされていない。本展は、そうした作業により、今まで隠れていた、しかし、重要な美術のもう一つの流れを明らかにするものである。 また、本展は評価の定まらない作家・作品に光をあてる機会でもある。巡回先の各館（足利市立美術館、久留米市美術館、町立久万美術館、碧南市藤井達吉現代美術館）は、本展をきっかけにそれぞれの地域のマイナーとされる作家・作品の調査を深めることができる。当館にとっては、岡本太郎作品と各館から推薦された作品とを並置することで、岡本太郎の芸術・思想を新たな切り口から捉える契機となる。これにより、より豊かな美術の局面を開示することを試みる。
内容	■展示構成 ・第一章 見神者たち 神的なものとダイレクトな「交流」があり、制作した人たちを紹介する。 出品作家：出口王仁三郎、出口なお、岡本天明、金井南龍、宮川隆、三輪洗旗 ・第二章 幻視の表現者 宗教的なビジョンあるいは幻視・幻覚を制作のモチベーションとした作家たちを紹介する。 出品作家：古賀春江、河野通勢、村山槐多、関根正二、萬鐵五郎、高橋忠彌、三輪田俊助、藤山ハン、芥川麟太郎、齋藤隆、庄司朝美、内田あぐり、花沢忍、八島正明 ・第三章 内的光を求めて 心に浮かんだ「幻」の素材である内的な光をそのまま表出した作家たちを紹介する。 出品作家：横尾龍彦、藤白尊、上田葉介、黒須信雄、橋本倫、石塚雅子 ・第四章 神・仏・魔を描く 既存の神仏に依拠した作品のほか、独自のビジョンによって感得した神仏の姿を表現した作家たちを紹介する。得体のしれない「魔」も表現の対象となる。

	出品作家：円空、橋本平八、藤井達吉、長安右衛門、若林奮、秦テルオ、牧島如鳩、佐藤溪、平野杏子、石野守一、真島直子、佐々木誠、三宅一樹、吉原航平、黒川弘毅、高島野十郎 ・第五章 越境者たち 既存の世界を越境して常人とは別の視点からこの「世界」を改めて見直した作家たちを紹介する。 出品作家：宮沢賢治、岡本太郎、草間彌生、横尾忠則、舟越直木、OJUN、中園孔二、馬場まり子、赤木仁 ■出品作品 約 130 点 ■関連イベント ○「顕神の夢展開幕記念鼎談」4 月 29 日（土・祝）14:00～15:30 登壇者：鎌田東二（京都大学名誉教授、本展監修者）、江尻潔（足利市立美術館次長、本展提案者）、土方明司（当館館長、本展提案者） 参加人数：99 名 ○ワークショップ「自分再発見！」5 月 21 日（日）13:00～15:30 講師：花沢忍（本展出品作家、画家） 参加人数：5 名 ○ワークショップ「ベラボーな自然に挑む！」6 月 17 日（土）10:00～12:30 講師：三宅一樹（本展出品作家、彫刻家） 参加人数：7 名 ○「出品作家によるギャラリートーク」5 月 21 日（日）11:00～11:30 話し手：花沢忍（本展出品作家、画家） 参加人数：26 名 ○担当学芸員によるギャラリートーク」①5 月 27 日（日）②6 月 17 日（土）各回 14:00～14:30 ゲスト（②のみ）：三宅一樹（本展出品作家、彫刻家） 参加人数：①15 名②52 名
--	---

内部評価(自己点検)
[実施状況・成果等]
信仰が宗教として制度化・体系化されるよりも遥か昔から存在する「人ならざるもの」を恐れ敬い熱望する感情に主眼を置く本展は、作家と「人ならざるもの」との関係性に着目し、そこから作家を各章に分類した。公立美術館において忌避されがちな宗教にまつわるテーマを取り扱い、なおかつそれをモダニズム以降の日本美術史に落とし込もうと試みたことは、本展の成果の 1 つと言える。 会期中、49 日間の入場者数は計 17,111 人と平均的なものであったが、販売用の図録 500 冊が会期終了

1 週間前に完売するなど、展示をご覧いただいた方には強い印象を残す展覧会となった。SNS で感想を共有する観覧者も度々見られ、当館以降の巡回館の観覧者数の増加に貢献したといえる。なお、現時点で、図録はどの会場でも売り切れが続いている。 本展では特に、Instagram での広報活動に注力した。会期中、通常の展示案内等の投稿計 5 回に加え、連載企画として作品紹介を計 14 回投稿した。また、特別企画として、通常は作品解説を行う「明司の眼（館長による Instagram 投稿）」でも本展の紹介を行った。 さらに、会期前日のレセプションにて開催した出品作家リレートークについて、撮影・編集し、YouTube で全 12 本を公開した。令和 5 年 10 月 17 日現在、総再生数は 4,600 回であり、これについても出品作家及び本展の広報の一助となった。
[課題・反省等] 展覧会を観た感想を SNS で共有してくださるお客様が度々みられたが、会期終了間際や会期終了後の投稿も多く、次の巡回館である足利市立美術館の入館者数の増加には貢献したものの、当館への影響は強く見られなかった。会期前半に足を運びたいくなるような仕組みや、SNS で感想や口コミを共有したくなるような工夫を今後検討していきたい。

[外部評価] 意見（評価できる点や課題など）[A：十分に達成 B：概ね達成 C：達成に至らず]	
・新たな視点でこれまで取り上げられることが少なかった作家に、光を当てた点で評価できる。 ・独創的な発想に基づく企画として、高く評価できる。また、複数館での共同研究の成果が発揮されており、さまざまな暗示に満ちていたと感じる。岡本太郎が放つ呪術性といった側面が垣間見えるところにも、妙味のある読後感を誘われた。 ・「神秘・宗教」という新たな視点から美術史を読み解き直すユニークな展覧会で、岡本太郎美術館ならではの企画であることが評価できる。巡回先の美術館で岡本太郎を紹介するという機能も果たしている。 ・芸術の起源を展覧会に組み立てる困難と、そこを越えようとする美術館員の熱意と充実した内容に画期的な企画性を感じた。 ・信仰という美術史の枠にとらわれない視点によって過去から現在までの美術の動向をとらえた企画力の光る展覧会であった。一般には難しいテーマであるにもかかわらず、1 万 7 千人を超える入場者があったことは、広報や関連イベントなど一般への理解につなげる努力があったと思われ評価できる。	A

事業名	「凱旋！岡本太郎」展
会期	令和 5 年 7 月 8 日(土)～10 月 1 日(日)
来館者数	入館者数：43,684 人（598.4 人/日） ※常設展来館者数含む
目標	本展は、令和 4 年から 5 年にかけて、大阪・東京・愛知で行われた大規模巡回展から帰ってきた当館の岡本太郎コレクションを改めて紹介するものである。3 館巡回展では NHK 関連番組も大いに話題になり、幅広い世代から関心を集めるなかでの川崎への「凱

	旋」展となるため、常設・企画の両方を使いボリューム感のある展示構成で岡本の魅力を発信した。 油彩や彫刻の代表作を中心に、パリで制作し戦禍で失われた作品を画集から拡大した実寸大パネルや、同時代の前衛美術家たちとの交流もあわせて紹介。制作過程を裏打ちするドローイングや家具・グッズ等のインダストリアルデザインなど幅広く展示し、岡本撮影の写真とあわせて、初公開の資料として「中世の庭」の当時の紙焼き写真も展示した。 夏休み期間の企画でもあるため、岡本太郎の生涯をたどる入門的な構成とし、幅広い世代が楽しめるような関連イベントや子ども向けワークシートの配布、会場内にスケッチコーナーを設置するなど、岡本太郎の面白さと奥深さを体感できる仕掛けづくりも配慮した内容とした。
内容	■展示構成 1章 パリ時代、2章 戦後の前衛として、3章 画壇のアヴァンギャルド、 4章 日本再発見—伝統と創造、5章 今日の芸術—建築・デザインとの協同、 6章 明日の神話と太陽の塔、7章 眼の宇宙、8章 見ることから描くことへ ■出品作品 油彩、彫刻、レリーフ、ドローイング、インダストリアルデザイン、 写真資料ほか すべて当館コレクションより約 220 点 ■関連イベント ○ワークシート「ミることは創ること」配布（7/21～9/17、約 8 千部） ○ワンポイントトーク（9/3 46 名、9/23 49 名） ※このほか会期に合わせ、ワークショップ「情熱のアートうちわ」「太郎彫刻を描こう！」「編む・編む・編む《ひもの椅子》」のほか、「宿題手伝いますツアー」「美術館裏探検」「第 12 回キッズ TARO 展」を普及イベントとして実施。 ■併催展示 「超凱旋！タローマン」展（7/8～8/31、主催：NHK 横浜放送局、川崎市）

内部評価(自己点検)
[実施状況・成果等]
・ 無料スペースでの併催展示「超凱旋！タローマン」展の人気と、凱旋展にキャラクターのモチーフ作品を展示したことが相乗効果となり、予想をはるかに超える多くの入館者があった。 ・ 普及企画スタッフによる企画であることから、夏休みの宿題で来館する中学生や小さな子ども連れの家族向けに、鑑賞のきっかけとなる問いや説明を吹き出し型のパネル、岡本の言葉や著書を紹介するパネルを工夫して掲示したことも好評だった。 ・ ワークシートやスケッチへの参加は子どもから大人まで大変多くみられ（スケッチ用紙は約 4,200 枚配布）、SNS 上でも子どもがスケッチする写真や、子どもにも優しく鑑賞を促す工夫が良いという感想も含め、多くの投稿が確認できた。
[課題・反省等]

併催展示「超凱旋！タローマン」展の会期中は大盛況で、8月中はショップやカフェで商品が枯渇し、品薄になる時期があった。来館者が多かったことと、夏の猛烈な酷暑で空調が効きにくい時期が続いたため、館内の温湿度のコントロールがかなり難しく、冷風機を追加するなどの対応に迫られた。

[外部評価] 意見（評価できる点や課題など）[A：十分に達成 B：概ね達成 C：達成に至らず]

・国内での巡回展に連動し、岡本太郎という作家をこれまで以上に周知するという点で成功した展覧会だった。 ・ネーミングが秀逸だった。いざタイトルに冠するなど大袈裟な感じを醸すので、躊躇しがちな言葉だが、館にとっても、また太郎ファンにとっても、意味のある展覧会だったと思う。 ・大規模巡回展後に岡本太郎の本拠地で作品を紹介することに大きな意義がある。ここ数年の来場者数や1日平均数でも群を抜いており、関連プログラムやTV番組との相互効果で新たな鑑賞者を獲得し、ワークシートやパネルなどで、若い世代に太郎との繋がりを提供したことも評価できる。 ・全国ツアーは美術館の存在と岡本太郎（作品）の存在感を強固にしたと想像できる。太郎イコールアート、何でもアートになる思想を定着させたと考えられる。 ・岡本太郎の大規模巡回展の「凱旋」というかたちで岡本太郎を紹介した展覧会は、多くの太郎作品を所蔵する館ならではのものであり、子ども向けのワークシートやイベントなど次世代の太郎ファンの獲得に繋がったことはよい成果であったと思う。	A
---	---

事業名	「TARO 賞の作家Ⅲ 境界を越えて」展
会期	令和5年10月14日（土）～令和6年1月14日（日）
来館者数	入館者数：20,259人（273.8人/日） ※常設展来館者数含む
目標	既存の美術の枠組みを超えて幅広い分野で活動し、常に社会と関わり力強いメッセージを発信し続けた岡本太郎。岡本太郎現代芸術賞（TARO 賞）は、岡本太郎の精神を継承し、自由な視点と発想で、現代社会に鋭いメッセージを突きつける作家を顕彰するべく創設された。これまで26回を数えるTARO 賞からは、国内外で活躍する作家を数多く輩出している。当館では、本賞の受賞作家による選抜展を「TARO 賞の作家」というシリーズで開催してきた。 シリーズの第3回となる本展では、「境界」をテーマに内海聖史、大西康明、若木くるみの3名の作品を展示。色彩豊かな絵画作品を制作する内海聖史。内海は、絵画は画面だけで完結するものではなく、空間の中にさまざまに配置することで、観る者の動きや感覚に働きかけるものとして、絵画のあり方を問いかける。「あること」と「ないこと」の関係性を、一貫したテーマとして作品を制作する大西康明。私たちの日常の中に確かに在りながら、捉えられない事象を作品によって顕在化する。大学で木版画を学んだ後、自身が作品の一部となるパフォーマンス作品でTARO 賞に参加した若木くるみ。森や波などの自然や日用品など、私たちの身の回りにある多様な素材を使い、版画の可能性を探る。

内容	■展示構成 内海聖史 第 6 回 入選 ：絵画 8 点 大西康明 第 5 回 入選、第 10 回 岡本太郎賞 ：インスタレーション 1 点 若木くるみ 第 12 回（2008 年度）岡本太郎賞 ：版画 約 50 点 ■関連イベント ○出品作家 3 名によるリレートーク 日時：11 月 2 日（木） 15：30～16：30 参加人数：84 人 ○若木くるみワークショップ「刷りとれ！生田緑地の凸凹探索」 日時：11 月 3 日（金・祝） 14：00～16：00 参加人数：12 人 ○内海聖史ワークショップ「そこにあるわけではない」 日時：11 月 19 日（日） 14：00～16：00 参加人数：20 人 ○担当学芸員によるギャラリートーク 12 月 9 日（土）14：00～15：00 参加人数：33 人
------------------	--

内部評価(自己点検)	
[実施状況・成果等] ・2 万人を超える多くの来館者を迎えることができ、アンケートでも多くの好評をいただくことができた。 ・TARO 賞の作家を紹介する本展で、現在の社会情勢に深く関るテーマを設定したいと考え、今回は「境界」というテーマを提起した。出品作家がそれぞれのアプローチでテーマに挑み、独自性の強い作品の展示を行ったため、展覧会全体で効果的な展示構成ができたのではと考えている。 ・本展では、絵画、版画、インスタレーションという作品構成で、それぞれの技法の在り方や可能性を問う、意欲的な作品を展示することができた。特にアンケートでは、若木くるみのユーモアにあふれ自由な発想で作られた版画作品が好評を得ていた。 ・鑑賞者参加型の若木作品の《影版》では、老若男女が体験を楽しむ姿が見られた。また鑑賞者の意見を参考に、ライトの設置方法など展示の改善を作家と行った。 ・それぞれが意欲的な作品である反面、作品がわかりにくいという指摘があったため、作家のリレートークの動画を会場内に設置し、好評を得ることができた。	
[課題・反省等] ・内海作品を見る際に、写真撮影や視野の確保のために、作品に触ってしまう鑑賞者が多かった。他の館ではなかなか出来ないサイズの大きな作品を設置することが出来たという反面、鑑賞者と作品との適切な距離感を調整する、あるいは作品保護の工夫の必要を感じた。 ・会期中たびたび大西作品の一部が接触不良を起こしたが、作家と常に連携を取りながら、展示環境の改善に努めることが出来た。 ・観覧者の SNS へ投稿数の増加を意識していたものの、投稿数の増加には至らなかった。	

[外部評価] 意見（評価できる点や課題など）[A：十分に達成 B：概ね達成 C：達成に至らず]	
・それぞれに個性の異なる3人の作家に光を当て、大規模なインスタレーションを含む充実した展示内容であったという点で TARO 賞の意義を改めて意識することができた。 ・岡本太郎現代芸術賞の開催意義の一端が、このシリーズに表れていると感じる。個々の作家との関係を持続しつつ、岡本太郎美術館らしい企画に発展していくという、非常に動的な企画であり、それを反映した展覧会であった。 ・岡本太郎現代芸術賞を受賞したアーティストを継続的にサポートする仕組みとして、この選抜展シリーズは重要である。作品だけでなく、アーティストトークやワークショップなどで、生きた作家と鑑賞者をつなぐプログラムデザインも評価できる。 ・作家の表現意図を、作品を通して伝える難しさがあると感じた。若木の自虐的な表現が即アートになっているのに対して他の二人は理論が先走っていて、果たして伝わったのかどうかと思う。 ・社会の今と美術をつなぐいい企画であるが、現存作家を扱う難しい点もあったかと思う。展示室の広さについては、制限があるのはやむを得ないが、空間の使い方などは、経験を次につなげてより展示効果の高い展覧会になることを期待する。	A

事業名	「第27回岡本太郎現代芸術賞（TARO 賞）」展
会期	令和6年2月17日（土）～4月14日（日）
来館者数	会期終了後に記載します。
目標	「岡本太郎現代芸術賞」展は、岡本太郎の精神を継承し、自由な視点と発想で、現代社会に鋭いメッセージを突きつける作家を顕彰するため設立された。今年で27回目をむかえる本賞を通し、21世紀における芸術の新しい可能性を探り、意欲的な作品を紹介する。
内容	・本年は621点の応募があり、22組の作家が入選した。最終審査の結果は下記の通り。 岡本太郎賞：つん《今日も「あなぐまち」で生きていく》 岡本敏子賞：三角 瞳《<i>This is a life. This is our life.</i>》 特 別 賞：池田 武史、長 雪恵、小山 恭史、クレメンタイン・ナット、月光社、小山 久美子、ZENG HUIRU、タツルハタヤマ、フロリアン・ガデン、村上 力、 入 選：大河原 健太、遅四グランプリ実行委員会、GORILLA PARK、鈴木 のぞみ、野村 絵梨、林 楷人、村尾 かずこ、横岑 竜之、横山 豊蘭、李 函樺 ■関連イベント ○来館者による人気投票 ○来館者から作家へメッセージを書く「お手紙プロジェクト」 ○入選作家によるリレートーク(全4回)を実施。

内部評価(自己点検)
[実施状況・成果等]
第24回 TARO 賞からオンラインでの募集を開始し、今回で4回目の運用となった。応募総数621点のうち、オンラインでの応募が333点、郵送が288点であり、今回初めてオンライン応募が郵送応募を上回った。

た。
前回からの大きな変更点としては、展覧会 DM に招待券機能を持たせたことが挙げられる。他館等の DM は招待券の機能を併せ持つものが多いため、DM で入館できると思い来館してしまう方が一定数いたことから、このように変更をした。チケットよりも嵩張ってはしまうものの、関係者からは好評を得た。
[課題・反省等]
作品の展示設営については、作家を2グループに分け、日程を分散させている。高所作業車などの館備品の利用順番待ちを減らすための対策でもあるが、前半よりも後半の日程に人気が集中しがちである。今年度は、自身で高所作業用の備品を用意してくる作家が例年よりも多かったこともあり、展示設営は概ね時間内に終えることができたが、後半の日程では順番待ちをしている作家を度々見かけた。前半の日程を強く勧めたり、自身での備品の準備を呼びかけたりと、順番待ちを減らす取り組みを続けていきたい。

[外部評価] 意見（評価できる点や課題など）[A：十分に達成 B：概ね達成 C：達成に至らず]	
・例年よりも入選者数が多いとのことで、他賞では応募することすら難しい個性的な作家・作品に評価の目を向ける機会として、今後更に重要性が増すのではないかと思われる。 ・じつにダイナミックな会場構成であり、各作家の現場での作業をサポートされた担当者の苦勞がしのばれる。本年はあたり年ということかもしれないが、さまざまなタイプの作家が選ばれたことで、まだ見ぬ出品者を発掘する、貴重な潜在的活力になったと思う。 ・応募方法や審査のデザインにも魅力があり、海外在住者も含め多くの応募があり、アーティストの制作のモチベーションとなっていることが伺える。幅広い世代、バックグラウンドの作り手が表現する「現代」を感じ取ることができる貴重な機会である。 ・600 点を超える応募作品から選び出す困難と、奇抜な作品と確実な技術による作品をバランスよく配置することの難しさを感じた。今年は力作だったと思う。 ・27 回を数える TARO 賞展については、すでに認知度も高く、多くの応募者もあり、内容も充実していた。複数の作家による展示の調整などが課題としてあげられているが、今回の経験を踏まえより円滑かつダイナミックな展示が行われることを期待する。	A

（２）常設展

事業名	「岡本太郎と太陽の鳥」展
会期	令和5年4月20日（木）～7月2日（日）
目標	動物を飼う、ということを好まなかった岡本太郎が、「わが窮極の友」として愛したのがカラスの「ガア公」だった。カラスの各々が独立し集団に規制されないというあり方を理想的な生き方と考えていた岡本が、ガア公と共に暮らした1959年からの数年間は、二科会を脱退したところと重なっている。集団から離れ個の芸術家として歩む自分の姿を、ガア公に投影していたのかもしれない。本展では、タイトルに鳥を冠する作品から、くちばしや羽のようなものが描きこまれた作品、また画家としての転機でもあった、ガア公と過ごしたころの作品を展示する。

	また、令和4年7月に開幕し、大阪・東京・愛知と巡回した「展覧会 岡本太郎」に出品された、当館所蔵の岡本太郎の代表作もあらためて紹介する。
内容	■展示構成 第1章 岡本太郎と鳥 第2章 ガア公とすごしたころ - 1960年代を中心に - 第3章 おかえりなさい！！ 「展覧会 岡本太郎」から戻った代表作を展示 ■出品作品 ・油彩 《傷ましき腕》《夜》《エクセホモ》《アドレッサン》《夢の鳥》 ・彫刻 《瑞鳥》《ノン》《太陽》《太陽の塔》《リョウラン》 ・その他 インダストリアル《夢の鳥》、テキスタイル《鳥》 ほか 約120点

内部評価(自己点検)	
[実施状況・成果等]	
これまで常設展で取り上げていない岡本太郎と鳥との関係について、作品だけでなく、当時の雑誌などの資料とあわせて紹介することができた。 岡本の画風の転換期となった二科会脱退の頃の60年代の作品について、当時飼っていたカラスとともに紹介することで、来館者にとって身近に感じることができたと考えている。 「展覧会 岡本太郎」に出品されていたため、長期間当館を不在にしていた代表作について、久しぶりに紹介することができ、好評をいただいた。	
[課題・反省等]	
「展覧会 岡本太郎」での成果について、代表作の展示を含め、もう少し紹介できればよかったと思うが、スペースに限りがあるため多く見せることができなかった。	

[外部評価] 意見（評価できる点や課題など）[A：十分に達成 B：概ね達成 C：達成に至らず]	
・すべての常設展示に共通することではあるが、誰にでも親しみやすいテーマ設定と出品作品の選定で工夫を重ねた結果としてコレクションを有効に活用している。 ・岡本太郎について、ある程度知っているファンには、なるほどと思わせる企画だが、あまり情報のないファンにとっては新鮮な展覧会であったと思う。意外性もあり、また、太郎のチャーミングな一面を感じさせる好企画であったと思う。 ・岡本太郎はカラスを非常に愛した、という逸話はあるが、多くの人にとって「鳥」という切り口は新たな視点で、これまでにない太郎との出会いを提供できたと考える。 ・モチーフを1点取り上げて掘り下げる展覧会の方法は、何でもアートになる太郎（美術館）だからこそ実現できる。鳥も太郎のアートになることにびっくりした。 ・常設展において、岡本太郎を軸に新しい切り口を模索するのは大変なことと思うが、今回の太郎と鳥についてはこれまでにない視点として興味深かった。周辺の資料なども加え、今後もこれまでにない視点を取り込んだ常設展が作られることを期待する。	A

事業名	「岡本太郎とスポーツ」展
会期	令和 5 年 10 月 5 日（木）～令和 6 年 1 月 14 日（日）
目標	当館で保管している岡本太郎の写真を眺めていると、岡本が野球やゴルフなどのスポーツに興じている姿をときたま目にする。特に、岡本自身が 46 歳で始めたと言うスキーについては、瞬間瞬間に命を懸けて斜面に身を投げ出す緊張感の虜になり、毎シーズン制作や執筆などの忙しい日々を縫って雪山に通ったという。雪山を前にひとりで「危険に向かい勇気をもって己れをひらく」姿勢は、芸術や生き方に対する岡本の指針と共通するものがある。 本展では、「岡本太郎とスポーツ」をテーマに、岡本が競技場等のために手掛けた作品や、岡本にとっての「スポーツ」にまつわる作品を紹介し、当館ならではの「スポーツの秋」をお楽しみいただきたい。
内容	■展示構成 第 1 章 岡本太郎、スポーツに挑む ―オリンピックへの熱 第 2 章 岡本太郎、スポーツに挑む ―肉体との対決 第 3 章 「人生、即 “遊び”。」 第 4 章 みんなでスポーツ ■出品作品 ・油彩：《マラソン》《風》《記念撮影》 ・彫刻：《五大陸》《躍動》《神話》《乙女》《躍動の門》 ・レリーフ：《オリンピックミュンヘン大会公式参加メダル》《栄光》《あしあと広場》《水火清風》 ・その他：テキスタイル《近鉄バファローズ》、岡本太郎デザインのスキー板 ほか 約 110 点

内部評価（自己点検）
[実施状況・成果等]
秋に開催される常設展ということで、「芸術の秋」と「スポーツの秋」からテーマを設定した。季節を感じられることと、「スポーツ」という身近なテーマであること、そして岡本太郎がスポーツ好きだったという意外性から、全国放送のラジオ局から生中継での展示紹介の機会をいただいた。また、テレビの情報番組でも本展を取り上げていただいた。ラジオを聞いて来館したというアンケートの回答もいただき、広報の成果が出た展示であった。また、会期中に計 5 回の展示紹介をInstagram に投稿した他、11 月 25 日には担当者によるギャラリートークを開催し、内部からも情報発信に努めた。
[課題・反省等]
ギャラリートークの開催を増やすなど、一方的に情報を発信するのではなく、来館者とコミュニケーションをとる機会をもう少し設けたかった。

[外部評価] 意見（評価できる点や課題など）[A：十分に達成 B：概ね達成 C：達成に至らず]	
・岡本太郎作品の魅力を堅実に周知してきた結果として、ラジオやテレビといったメディアに取り上げられたと言えるだろう。	A

・これもまた、「岡本太郎と太陽の鳥」展と同様に、岡本太郎のもう一つの顔を覗ける企画であると思う。とりわけ、スポーツ用品のデザインなどは、意外性もあり、その現物を目にできたことは、じつに興味深い体験であると思う。 ・アーティストでありながら、スポーツマンでもあった太郎が手掛けたスポーツにまつわる作品をまとめて鑑賞する機会を提供できたことが良かった。 ・高年になってスキーを始めた話題で承知していた。 ・岡本太郎とスポーツというテーマと太郎の芸術姿勢に共通点をみた内容は興味深かった。スポーツの秋という時期もあり、工夫されていることが見られる好企画であったと思う。	
--	--

事業名	「人のかたち：岡本太郎の人物表現」展
会期	令和6年1月20日（土）～4月14日（日）
目標	原色の鮮やかさやテーマ性の強い作品のインパクトゆえ、「人物を描く」という印象があまりない岡本太郎だが、初期のパリ時代から晩年まで、描かれている主題や中心的なモチーフの多くは、人や顔、その内面を含めた人間の在りようである。絵の中に描き出される人の姿は、オーソドックスな具象的な描き方から、ユーモラスに擬人化されたキャラクター、ピクトグラムのように記号化されたものまで、制作時期の作風によってさまざまに変遷している。また絵画だけでなく、立体やモニュメントのモチーフとしても《太陽の塔》をはじめ多くの作品が制作されている。初期の代表作《傷ましき腕》から展開していったパリの消失作品の流れも含め、岡本太郎が描いた人のかたち、表現のヴァリエーション、その幅の広さを紹介する。
内容	■出品作品 写真パネル：パリ時代の消失作品より《作家》《夏の夢》《リボンの人》《失樂園》 油彩：《傷ましき腕》《夜》《重工業》《歩く人》《作家》《哄笑》《マスク》《装える戦士》ほか 彫刻：《顔》《午後の日》《若い時計台》《栄光》《こどもの樹》《女神像》ほか 約120点

内部評価(自己点検)
[実施状況・成果等]
企画展が太郎賞ということもあり、代表作も含め、当館コレクションの中核となる作品を揃えた構成とした。岡本が具象に近い表現をしていたパリ時代の消失作品パネルも含めて、時系列にそって岡本の人体表現のヴァリエーションをご覧ください流れとし、岡本太郎の言葉と併せて展示を行った。
[課題・反省等]
人へのまなざし、民族学との関連と人体表現という視点から、岡本太郎撮影の写真についても構成に含めたいと考えたが、展示スペースの関係上難しく、次回以降の課題としたい。

[外部評価] 意見（評価できる点や課題など）[A：十分に達成 B：概ね達成 C：達成に至らず]	
・展示スペースの都合上出品作品を絞り込まざるを得なかったとのことだが、コレクションの展示を開催する中で課題を見出し、今後の企画展につながるテーマへと展開しようとする姿勢は高く評価できる。	A

・ありそうでない。という企画だと思う。実際、岡本太郎が彼特有のスタイルを確立していく過程での人体表現はあるにしても、その具体性は徐々に薄まっていく。しかし、彼の芸術家としての思想の根底には、「人間」という大きなテーマが横たわっているということを、会場に並ぶ諸作品から嗅ぎとれた。 ・「岡本太郎による人物表現」という、あるようでありなかつた切り口からの作品選択が良かった。パリで消失した作品を写真パネルで紹介することで、これまでなかなか知られることがなかつた初期作品の情報を提供したこともよかった。 ・大きな展覧会になる可能性を感じた。 ・岡本太郎をさまざまな視点から取り上げている常設展は、学芸員の調査や研究という地道な活動が反映されている。テーマの発掘と掘り下げにより、将来の企画展につながる常設展は楽しみである。	
---	--

2 資料収集・整理、調査研究

事業名	資料収集・整理、調査研究
目標	・岡本太郎・一平・かの子に関連する資料、ならびに岡本太郎と同時代に交流のあった作家の作品資料を収集する。 ・岡本太郎、関連作家による寄贈資料について、整理と調査研究を進める。
内容	・岡本太郎と関連作家の資料の収集。 岡本可亭・一平・かの子及びその関連作家の資料収集。岡本太郎没後に制作されたインダストリアルデザイン、関連グッズ等も収集する。 ・寄贈された資料について、整理とデジタル化を進める。

内部評価(自己点検)
[実施状況・成果等]
令和5年度購入予定資料（令和4年2月時点） ・岡本太郎《光る彫刻》（小）、FRP、w1010×d840×h595（mm） ・岡本かの子草稿《異国春色抄》 紙にインク ・岡本かの子賛、岡本一平画《短冊（カンナ）》 紙本着彩 ・岡本一平画《第十回春陽会展ポスター》印刷物 資料整理と調査研究 ・今年度は当初予定通り、岡本太郎半切プリント制作、岡本太郎撮影フィルム、北代省三撮影フィルム及び、岡本太郎関連映像を中心に、デジタル化業務と整理作業を進めた。
[課題・反省等]
資料収集のうちプロダクトデザインとして現行販売されている《光る彫刻》については、当館所蔵のオリジナルと共に展示で活用するだけでなく、制作時期による変化・特長を見る資料の側面も持つ。岡本一平、かの子資料については、懸案事項など専門家の意見を仰ぎながら、常設展示での活用ができる資料を収集することができた。

資料整理と調査研究については、今年度は人的体制が整わない時期があり、優先順位をつけてデジタル化業務などを進めたこと、体制が整った年度後半では写真整理作業などかなり進めることができた。

[外部評価] 意見（評価できる点や課題など）[A：十分に達成 B：概ね達成 C：達成に至らず]	
- 資料整理と調査研究に関して効率的に業務を進めることで成果を上げた点で、目標を十分に達成できている。 - 少額であっても、購入予算を維持し、実際に収集と結びつけていることは、とても重要なことだと思う。 - 太郎に直接的に関係する資料に限定せず、周縁の資料収集を継続していることは重要なことであり、今後も継続されていくことを期待する。 - 太郎、かの子、一平それぞれの資料を収集できたこと、デジタル化を着実に進めている点を評価する。 - 少ない人数での資料収集や整理は苦勞が多いと思われるが、岡本太郎に関する資料は戦後美術史を再見するにあたり、さらに重要度が増すと思われる。外部からのニーズも高まると想像されるが、一方で自館の展示や企画にもそうした成果がますます反映されるよう継続していただきたい。	A

3 作品の保存・修復、貸出

事業名	作品の保存・修復、貸出
目標	- 所蔵作品・資料の状態把握に努め、当館での展示に支障が生じないように貸出の調整を行う。作品・資料の保存・管理業務を定期的に行い、適切な処置を施し、館内の良好な環境の維持に努める。 - 岡本太郎作品を中心に、当館で所蔵する作品・資料の保存及び作品の状態を考慮した作品、資料の貸出を行う。 - 作品調書整備、作品修復業務、燻蒸業務など作品の保存・管理業務を定期的に行い、適切に処置する。 - 環境調査、酸アルカリ調査、温湿度調査、収蔵庫とその周辺の清掃作業など定期的に行い、館内の良好な環境を維持する。
内容	[作品貸出] - 岡本太郎《具現》《千手》を「顕神の夢」展（会期・会場：令和5年7月2日（日）～8月17日（木）足利市立美術館、令和5年8月26日（土）～10月15日（日）久留米市美術館、令和5年10月21日（土）～12月24日（日）町立久万美術館、令和6年1月5日（金）～2月25日（日）碧南市藤井達吉現代美術館）に貸出。 - 岡本太郎《誘う》《午後の日》を「縄文≡現代～共鳴する美のかたち」展（会期：令和5年7月15日（土）～9月3日（日）、会場：苫小牧市美術博物館）に貸出。 - 岡本太郎《手の椅子》《ティーセット夢の鳥》《顔の時計》《サイコロ椅子》（2点）を「岡本太郎 アートの夢～陶壁・陶板・21世紀のフィギュア造形」展（会期：パート1 令和

	5 年 7 月 15 日（土）～9 月 24 日（日）、パート 2 令和 5 年 9 月 30 日（土）～12 月 18 日（日）、会場：滋賀県立陶芸の森陶芸館）に貸出。 ・岡本一平《漱石八態》と《横山はるひレエ公演『阿童』ポスター》計 2 点を「芥川龍之介と美の世界 二人の先達一夏目漱石、菅虎雄」展（会期・会場：令和 5 年 10 月 28 日（土）～令和 6 年 1 月 28 日（日）久留米市美術館、令和 6 年 2 月 10 日（土）～4 月 7 日（日）神奈川県立近代美術館 葉山）に貸出。 ・岡本太郎作品 26 点、岡本太郎撮影写真 93 点、資料他を「九州芸文館開館 10 周年記念展 岡本太郎の写真―日本を見つめる眼」（会期：令和 5 年 10 月 28 日（土）～12 月 3 日（日）、会場：九州芸文館）に貸出。 ・岡本太郎《笑い》、岡本太郎撮影写真 2 点、資料 2 点を「第 8 回横浜トリエンナーレ『野草：いま、ここで生きてる』」展（会期：令和 6 年 3 月 15 日（金）～6 月 9 日（日）、会場：横浜美術館）に貸出。 [作品修復] 《母の塔》整備業務を行った。油彩作品の額装修復を予定。
--	---

内部評価(自己点検)	
[実施状況・成果等]	
・作品貸出については、滞りなく貸出を行った。 ・作品修復については、《母の塔》について、塔内部の整備業務を行った。額装の修復を行う作品については選定中。	
[課題・反省等]	
・令和 4 年度に 3 会場を巡回した「展覧会岡本太郎」に出品した作品については、作品保護のため令和 5 年度は貸出を行わないという方針をとった。そのため、今年度は主要作品がほぼ貸出できない状況となり、出品作品の調整が難しかった。開催時期の再検討や出品をお断りするケースもあった。	

[外部評価] 意見（評価できる点や課題など）[A：十分に達成 B：概ね達成 C：達成に至らず]	
・作品の保存・修復における基本的な業務を着実に実施している。 ・毎年、適切な保存、修復作業を重ねられていることが、事務局からの説明で得心した。岡本太郎作品の借用希望は後を絶たないと思うが、貸出を可能しているのは、恒常的な作品のメンテナンスがあるからと思う。今後も、この美術館としての基盤業務の拡充を期待する。 ・作品保護に留意しながら、全国各地から寄せられる貸出依頼に適切に対応し、太郎作品の鑑賞の機会を生み出している点を評価する。《母の塔》の内部整備が行えたことも良かった。 ・作品資料の展示活用はもちろんのこと、それらを未来に残すための保存環境を整えることも美術館の役割である。 ・傷んだ作品の修復も重要であるが、傷めないための環境づくり、また限られた空間での収納なども継続的に検討をしていっていただきたい。	A

4 普及企画

事業名	普及企画
目標	・学校教育と連携し、学校現場の実情や、要望を踏まえた鑑賞プログラムにより教育普及活動を推進する。 ・近隣の大学、専門学校、幼保・小中高等学校、地域商店街などと連携した事業を行い、地域との交流を深め美術館事業の活性化につなげる。 ・子どもから大人までが幅広く参加でき、美術や岡本太郎芸術に親しめるイベント、ワークショップを開催し、「多くの人に開かれた美術館」というイメージの定着を図るとともに、より地域に根ざした芸術活動の中心的役割をはたす。
内容	・学校等の団体見学、校外授業のカリキュラムに応じたガイドや鑑賞活動を行う。 ・教育機関で活用する教材の開発や貸出、活用例の紹介、出張授業を行う。 ・教育関係研究会、研修会等における講師の招聘を通じてより多くの教育機関と連携、協働した美術館活動を行う。 ・大学生、高校生をインターンとして美術館イベントに参加させるとともに、自らが考え、すすんで行動する自主性を重視した活動を行う。 ・幅広い層の来館者に対応した体験型イベントや年齢に応じたワークショップなどを開催し、来館者のニーズに沿っていく。 ・教育普及を目的とした展覧会を開催する。

内部評価(自己点検)																															
[実施状況・成果等]																															
《教育プログラム》																															
団体見学																															
学校団体や教育機関による鑑賞学習やグループ学習を、対象年齢や学習目的に応じて先生と話し合いながら行うもの。今年度は、感染症対策の緩和に合わせて鑑賞プログラムを検討し、実施した。団体の受け入れについては、展示室の広さを考慮し、一回の受け入れ人数を 80 人として 45 分間の鑑賞ツアーを実施している。鑑賞プログラムは、対話型の“森の掟コース”、ワークシートを活用する“こどもの樹コース”、教員主導の“太陽の塔コース”を基本としている。																															
＜今年度見学団体＞（2024.3月末見込み数） <table><tr><td>幼稚園・保育園</td><td>7 団体</td><td>313 名</td></tr><tr><td>特別支援学校</td><td>6 団体</td><td>104 名</td></tr><tr><td>小・中学校</td><td>77 団体</td><td>7,006 名</td></tr><tr><td>高校・大学</td><td>11 団体</td><td>339 名</td></tr><tr><td>その他</td><td>13 団体</td><td>495 名</td></tr></table> ＜R4 年度＞(2023.3 月末) <table><tr><td>幼稚園・保育園</td><td>6 団体</td><td>222 名</td></tr><tr><td>特別支援学校</td><td>3 団体</td><td>46 名</td></tr><tr><td>小・中学校</td><td>30 団体</td><td>2,710 名</td></tr><tr><td>高校・大学</td><td>4 団体</td><td>49 名</td></tr><tr><td>その他</td><td>4 団体</td><td>53 名</td></tr></table>		幼稚園・保育園	7 団体	313 名	特別支援学校	6 団体	104 名	小・中学校	77 団体	7,006 名	高校・大学	11 団体	339 名	その他	13 団体	495 名	幼稚園・保育園	6 団体	222 名	特別支援学校	3 団体	46 名	小・中学校	30 団体	2,710 名	高校・大学	4 団体	49 名	その他	4 団体	53 名
幼稚園・保育園	7 団体	313 名																													
特別支援学校	6 団体	104 名																													
小・中学校	77 団体	7,006 名																													
高校・大学	11 団体	339 名																													
その他	13 団体	495 名																													
幼稚園・保育園	6 団体	222 名																													
特別支援学校	3 団体	46 名																													
小・中学校	30 団体	2,710 名																													
高校・大学	4 団体	49 名																													
その他	4 団体	53 名																													

(資料) 令和4・5年度見学団体統計

【令和4年度学校受入数】

月	小学校		中学校		高校・大学		特別支援学校・		幼稚園・		その他		合計	
	件数	人数	件数	人数	件数	人数	件数	人数	件数	人数	件数	人数	件数	人数
4月	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
5月	1	190	0	0	2	25	0	0	1	29	0	0	4	244
6月	6	704	1	6	0	0	1	21	2	132	1	15	11	878
7月	1	105	3	90	1	17	0	0	1	21	0	0	6	233
8月	1	171	2	27	0	0	0	0	0	0	0	0	3	198
9月	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
10月	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
11月	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
12月	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
1月	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
2月	10	1060	1	28	0	0	2	25	1	22	1	10	15	1145
3月	3	308	1	21	1	7	0	0	1	18	2	28	8	382
合計	22	2538	8	172	4	49	3	46	6	222	4	53	47	3080

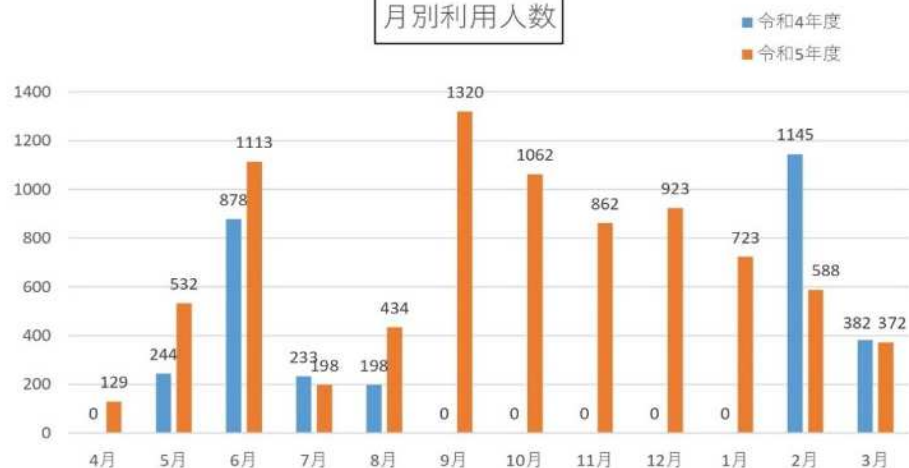
【令和5年度学校受入数】

月	小学校		中学校		高校・大学		特別支援学校・		幼稚園・		その他		合計	
	件数	人数	件数	人数	件数	人数	件数	人数	件数	人数	件数	人数	件数	人数
4月	0	0	0	0	1	121	0	0	0	0	1	8	2	129
5月	2	169	1	245	1	19	0	0	1	99	0	0	5	532
6月	8	1026	0	0	1	73	1	14	0	0	0	0	10	1113
7月	0	0	3	93	1	24	0	0	0	0	2	81	6	198
8月	0	0	3	53	5	15	0	0	1	17	5	349	14	434
9月	10	1269	1	13	0	0	1	38	0	0	0	0	12	1320
10月	7	810	1	79	0	0	1	19	3	144	1	10	13	1062
11月	6	751	4	32	1	44	0	0	1	30	1	5	13	862
12月	9	839	2	41	1	43	0	0	0	0	0	0	12	923
1月	7	688	2	11	0	0	1	6	0	0	1	18	11	723
2月	6	545	2	12	0	0	1	18	0	0	1	13	10	588
3月	3	330	0	0	0	0	1	5	1	23	1	11	6	369
合計	58	6427	19	579	11	339	6	100	7	313	13	495	114	8253

団体別利用人数



月別利用人数



教材貸出（92 件）

岡本太郎紹介ビデオ・DVD、作品をプリントしたカード（A5・A3）、岡本太郎の「遊ぶ字」をプリントしたカードを貸し出している。下見の際、貸出教材の紹介を必ず行い、それらを活用した事前学習を勧めている。今年度は作品を A5 サイズにプリントしたアートカードの貸し出しが多くみられる。市外や県外からの貸し出し希望も増えている。また、B 倍サイズの大型作品の貸し出しも行っている。

さらに、今年度は、昨年度作成した「《太陽の塔》授業セット」「《明日の神話》授業セット」（作品画像だけではなく、岡本太郎が作品制作をしている様子のわかる写真や関連作品などを A3 サイズにプリントしパウチ加工した 20 画像のセット）の貸出希望もあり、作品を授業の中でより深く味わう実践が行われているのを感じる。

オンライン教材 どこでも TARO アトリエ（市外学校利用連絡：1 校）

「どこでも TARO アトリエ」は、令和 2 年 4 月に出された緊急事態宣言下で、多くの方が自宅で過ごされている時期に、美術館へ行けなくても、自宅で岡本太郎の作品を楽しんでもらえるように始めたコンテンツである。これまで好評だったワークショップなどから、大人でも子どもでも、気軽に楽しめるアイデアを紹介した。9 月に開催された生田緑地内のお月見フェスタでは、コンテンツの活用をしたイベントを開催した。感染症対策が緩和された現在も、住まいが遠方の方は来館しにくいとため、しばらくの間、「どこでも TARO アトリエ」の公開・更新を続けている。市内の学校現場では、鑑賞後の表現活動として気軽に取り組むことができるということで、活用したという声も届いている。

配信開始：令和 2 年 4 月 19 日（日）～現在継続公開中

出張授業（1 校）

図工・美術科における鑑賞活動として、また異学年交流によるイベント、ワークショップとして、学校と美術館が一緒に鑑賞プログラムをつくり、実施している。学校行事や授業公開において活用する学校もある。今年度は、中学校において 1 校の出張授業を行った。美術館や岡本太郎という人物及び代表作品の紹介をするとともに、A3 サイズのパウチ作品「遊ぶ字」を活用し、鑑賞授業を行った。各々が岡本太郎になった気持ちで自由に自分の表現を楽しんでいた。体験後、美術館に行き、太郎作品を実際に目でみてみたいという声が聞かれた。

オンライン授業（2 校）

GIGA スクール構想の推進が図られる学校現場と連携し、鑑賞活動における ICT 端末の効果的活用の情報を収集するため、小学校 2 校とオンライン授業を実施した。実施校と何度か打ち合わせを行い、実施学年や鑑賞の目的に合わせて行った。オンラインの中でも対話型鑑賞の場面を取り入れ、作品から素直に感じた児童の思いを引き出すことを心掛けた。実際に行ってみると、双方向の対話ではタイムラグが生まれる難しさを感じた。しかし、画像からでも太郎作品の放つ鑑賞しているものの感情を揺さぶるエネルギーが届くことは、児童の歓声やつぶやきからわかった。太郎作品の面白さ、楽しさを味わい、美術館への関心を高めることの効果は十分にあったと感じた。今後、市外や県外など遠方の地にある学校団体からの相談があった場合、対応の調整が可能かも見極めた上で、貸し出し教材の紹介に併せてオンライン授業の案内をすることも検討していきたい。

職場体験(5校)

中学・高校生に美術館の運営についてその目的や内容を幅広く学んでもらうための活動。学芸員、教育普及、施設管理、監視・受付、ミュージアムショップの仕事等を体験する。また、ワークショップの手伝い等も行った。実際に体験をすることで、美術館には作品とかかわり、多くの人たちが連携して働いていることや岡本太郎美術館についての気づきを深め、美術館の仕事の魅力を感じ、振り返りの言葉として伝えたり、ワークシートに書いてまとめたりした。

高校インターン(2件)

美術館での仕事を実体験を通して、そこで働く人や来館者と接し、美術館の持つ役割や目的、機能を知るとともに社会的なルールやマナーを学ぶ目的で行っている。今年度は、高校2校の体験希望があり、夏季休暇中に2日間、3名の参加者があった。学芸員の仕事、受付・監視の仕事、施設管理の仕事、普及企画担当の仕事を体験した。普及の仕事では、普及イベント(中学生の宿題手伝いますツアーや美術館探検ツアー)の手伝いも行った。また、体験したことをもとに、それぞれが美術館レポートを作成した。

社会体験研修(1件)

教職員の経験者研修の一環として、異業種の体験を通して、組織の中で自ら果たすべき責任や役割を学び、教育活動に活かすことを目的として行われた研修。今年度は、支援学校の教職員1名が来館し、研修をされた。夏季休暇中の2日間に、普及イベントの手伝いや、「受付・看視」「広報」「施設管理」からのレクチャーを受け、日頃とは違う仕事を体験していただいた。美術作品にかかわる多様な仕事があることを知り、美術館の役割を深くし理解した上で、学校現場での鑑賞授業に生かしていきたいという感想をもたれた。

教員職場研修(1件)

岡本太郎や作品についてと貸出教材を利用した授業のレクチャーを、小学校・中学校の先生方に行い、岡本太郎の啓蒙と、美術館の教材を使用したアート活動を知ってもらう。

川崎市小学校図画工作科研究会夏季実技研修を美術館で行い、展示室での鑑賞活動、アートカードゲームなどを行った後、表現活動を創作アトリエで実施した。教職員の方々とともに行える鑑賞教育について学ぶ場を持てた。

《普及イベント》

<TARO 鯉にいどむ！ inラゾーナ川崎プラザ>

ワークショップ 日程 令和5年4月9日(日) ①10:00～11:30 ②12:30～14:00 ③15:00～16:30

作品展示日程 令和5年4月18日(火)～5月7日(日)

内 容 恒例となった出張ワークショップ「TARO 鯉に挑む！」を川崎駅に隣接しているラゾーナ川崎プラザ5階の野外スペースで行った。太郎鯉や子ども達のつくったカラフルな鯉のぼりに誘われて、親子で楽しく制作する様子が見受けられた。普段、美術館に行く機会が少ない方達にも、岡本太郎美術館に興味をもつきっかけになっていた。

場 所 ラゾーナ川崎プラザ 5F 中央通路

料 金 無料

参加人数 ①子ども 20 名（保護者 26 名） ②子ども 21 名（保護者 14 名）
③子ども 20 名（保護者 21 名）（当日受付）

<TARO 鯉にいどむ！2023>

ワークショップ 日程 令和 5 年 4 月 23 日（日）、30 日（日） 各日①10:00～12:00 ②13:30～15:30

作品展示日程 令和 5 年 4 月 3 日（水祝）～5 月 7 日（日）

内 容 今年で 12 回目になる恒例イベント。常設展の作品をはじめ、屋外に展示している《TARO 鯉》を鑑賞し、アトリエでオリジナルの鯉のぼりを制作し、母の塔広場に展示しました。岡本太郎作品にエネルギーをもらい、参加者は自由勝手に思い思いの鯉のぼりを制作していた。母の塔前広場の展示は、これまでの鯉のぼりを含め、約 100 尾が泳ぎ、生田緑地を訪れる人を楽しませていた。

場 所 創作アトリエ、常設展示室、ギャラリースペース、母の塔前広場

料 金 無料（要観覧料）

参加人数 23 日：①10 組（子ども 10 名、大人 10 名） ②12 組（子ども 8 名、大人 11 名）
30 日：①12 組（子ども 9 名、大人 11 名） ②11 組（子ども 10 名、大人 10 名）
（先着順/電話受付）

<みんなでつくろう！こどもの樹>

日 時 令和 5 年 5 月 4 日（木祝）・5 日（金祝）10:30～11:30/13:00～16:00

展示期間 令和 5 年 5 月 4 日（金祝）～5 月 14 日（日）

内 容 今年で 3 回目となる、《こどもの樹》の顔で作った塗り絵と自由に描けるイベント。丸い紙を用意し、みんなで自由に顔を描いて『こどもの樹』を作りました。ゴールデンウィーク中の小さい子ども連れのご家族や大人の方にも楽しんでいただいた。多くの方にご参加いただき、賑やかなイベントとなった。

場 所 ギャラリースペース

料 金 無料

参加人数 1 日目：大人 109 名 子ども 81 名 2 日目：大人 146 名 子ども 118 名
合計：454 名

<中学生「夏休みの宿題手伝います」ツアー>

日 時 令和 5 年①7 月 25 日（火）②8 月 3 日（木）③8 月 18 日（金）10:00～11:00

内 容 今年で 6 年目となる中学生向けの美術館見学ツアー。中学校では夏休みの課題として美術館に行って感想をかいたり、新聞をつくったりする学校が多く美術館スタッフによるツアーをおこなっている。今年度は、美術館の役割にも触れ、作品だけでなく美術館自体にも興味・関心向けることができるようなワークシートを作成。友達や家族と一緒に参加し、作品の話しをしながら鑑賞したり、一人で真剣に作品を鑑賞したりする様子が見られた。

場 所 常設展示室、企画展示室

対 象 小学生以上

料 金 無料

参加人数 ①14名（中学生10名、付添4名）②43名（中学生22名、付添21名）
③33名（中学生23名、付添10名）（当日受付）

<生きカエル 情熱のアートうちわ>

日 時 令和5年7月29日（土）①10:00～12:00 ②13:30～15:30

内 容 太郎さんの展覧会ポスターやチラシ・紙・布などを切ったり貼ったりして、オリジナルのうちわをかえるかわる子さんとともに制作するワークショップ。参加者同士での交流が生まれる等、和気あいあいとした空間の中で行われた。

場 所 展示室、ガイダンスホール

講 師 かえるかわる子（第24回 TARO 賞入選作家）

対 象 ①小学生以上（低学年は保護者同伴）②18 歳以上

料 金 500 円＋観覧料

参加人数 ① 14 名 （子ども：13 名 大人：1 名 付き添い：10 名）
② 8 名 （子ども：2 名 大人＊付き添い含む：6 名）（先着順/電話受付）

<美術館裏探検>

日 時 令和5年8月6日（日） ①11:00～11:40 ②13:30～14:10

内 容 普段見ることの出来ないバックヤードの一部を公開する子ども限定のイベント。第一収蔵庫、第二収蔵庫、大型エレベーター・搬入口・キャットウォークなどを探検しながら、美術館がどのように作品を保管し展示しているのかについて話した。普段は入れない場所にキョロキョロ、ワクワクしている子ども達の様子がうかがえた。

場 所 展示室、バックヤード

対 象 小・中学生

料 金 無料

参加人数 ①10名（付添2名） ②9名 （先着順/電話受付）

<太郎彫刻を描こう！>

日 時 令和5年8月20日（日）①10:00～11:30 ②13:30～15:00

内 容 展示室の彫刻を鑑賞し、気に入った角度からスケッチし、参加者の皆さん全員が真剣に作品と対話し、夢中になって描く様子が伺えた。描く中で、太郎彫刻のさらなる魅力を発見していた。

場 所 展示室、ガイダンスホール

対 象 ①小学生以上（低学年は保護者同伴）②18 歳以上

料 金 300 円＋観覧料

参加人数 ① 10 名 （大人：8 名 付添2 名）
② 23 名 （子ども：11 名 付添12 名）（先着順/電話受付）

＜第 12 回キッズ TARO 展—テーマ「森のオキテ」—＞

作品募集期間	令和 5 年 8 月 1 日（火）～8 月 27 日（日）＊消印有効
作品展示日程	令和 5 年 9 月 2 日（土）～10 月 1 日（日）9：30～17：00
内 容	自由な発想で、独創的な作品を作り続けた岡本太郎。その精神を受け継ぎ、子どもの無邪気で自由な表現の場として、第 12 回目となるキッズ TARO 展を開催した。今年のテーマは「森のオキテ」のもと、幅広い作品が集まりまった。川崎市内だけではなく、県外の子ども達からの応募も多数あった。
場 所	ギャラリースペース
対 象	中学生以下
作品サイズ	四つ切サイズ（38cm×54cm・縦横自由）以内
応募者数	104 名

＜TARO 塗り絵～若かりし日の TARO カンヴァスを彩る～＞

日 時	令和 5 年 9 月 10 日（日）10:00～11:30/13:30～15:30
内 容	戦火で焼失してしまった太郎さんのパリ時代の作品（画集「OKAMOTO」に掲載された作品の中の 4 作品《リボン》《リボンの祭り》《机のある静物》《夏の夜》をもとにした塗り絵を自由楽しむイベント。幼児から大人まで、それぞれのイメージパレットで、時間を忘れ、集中して色塗りを楽しむ様子が伺えた。
場 所	ギャラリースペース
料 金	無料
参加人数	大人 64 名 子ども 41 名 合計：105 名

＜編む！編む！編む！《ひもの椅子》＞

日 時	令和 5 年 9 月 17 日（日） 13:30～16:00
内 容	太郎さんのデザインした《ひもの椅子》は、椅子のフレームと紐が別々の状態から、どんな色合わせ・模様・座り心地にするかは、編む人しだいの、ユニークな椅子であり、新しい美術館の《ひもの椅子》を参加者の方に編んでもらうイベント。第 21 回岡本太郎現代芸術賞に入選され、毛糸などで作品制作をされている藤本りか氏を講師に迎え、色合わせについてのアドバイスをもらいながら、色とりどり個性豊かな椅子を制作した。
場 所	展示室、ガイダンスホール
講 師	藤本りか（第 21 回 TARO 賞入選作家）
対 象	①小学生以上（低学年は保護者同伴）②18 歳以上
料 金	無料（高校生以上は要観覧料）
参加人数	4 組（大人 5 名、子ども 3 名）（先着順/電話受付）

＜“マスカレード風”月の顔の仮面をつくって・遊びにこよう＞

日 時	令和 5 年 9 月 30 日（土）11:00～17:00
-----	-------------------------------

内 容	オンラインコンテンツ・どこでも TARO アトリエで配信中の第 25 弾「“マスカレード 風” 月の顔の仮面をつくろう」をおうちで制作して、美術館に持参すると限定クリアファイルが貰えるイベント。当日は、自慢のオリジナル仮面を持った親子の姿が数多く見受けられた。
場 所	美術館受付
対 象	どなたでも
料 金	要観覧料
参加人数	58 名

<作品の中の生きものを、描いて動かしてみよう>

日 時	令和 5 年 10 月 9 日（月・祝）①10:00～12:00 ②13:30～15:30
内 容	岡本太郎さんの絵画から推しの生きものを見つけて、描いて切り出し、割りピン（割鋏）を使って動かしてみるワークショップ。体のパーツをバラバラに描いたり、使ったことのない金具と向き合ったりと、慣れない作り方に苦戦しながらも、参加者は楽しそうに制作していた。
場 所	常設展示室、ガイダンスホール
対 象	小学生
料 金	300 円（保護者は要観覧料）
参加人数	①4 名（子ども：4 名 付添 5 名） ②6 名（子ども：6 名 付添 7 名）（先着順/電話受付）

<美術館誕生祭！シルエットクイズラリー～美術館に潜むものを探そう～>

日 時	令和 5 年 10 月 29 日（日）12:30～15:30
内 容	岡本太郎美術館が誕生してから、今年で 24 周年。地下に展示室があり、美術館の入口、赤の部屋、展示室の導線も洞窟探検をしているような気持ちになるつくりになっている。芸術の詰まった洞窟のような空間の中で、太郎さんの生み出した作品の形をヒントに潜む作品を見つけだすクイズラリーを通して、岡本太郎美術館のよさや太郎作品の面白さを味わう姿が見られた。
場 所	常設展示室
料 金	要観覧料
参加人数	171 名（当日受付）

<岡本太郎の羅針盤(コンパス)～Q&A～>

日 時	令和 5 年 11 月 26 日（日）13:30～15:30
内 容	専修大学・問題解決型チャレンジプログラムの学生によるイベント。岡本太郎の作品を観て、著書を読むことから始め、学生間での話し合い、美術館スタッフを交えた打合せを重ね、太郎の言葉と作品に基づく問題を解きながら、展示室内を回るクイズラリーを実施した。「面白かった」といった声が多く聞かれ、太郎度が高くて少々複雑そうな方、満面の笑みの方など、様々な反応を見ることができた。

場 所	常設展示室
対 象	小学生以上（未就学児は要保護者同伴）
料 金	無料（要観覧料）
参加人数	75 名（当日受付）

<認知症当事者と介護者を対象とした美術鑑賞プログラム「アートリップ」>

日 時	令和 5 年 12 月 13 日（水）10:00～11:30
内 容	「アートリップ」は、“アート”と”トリップ”を組合わせた造語。「アートリップ」では、アートコンダクターからの質問をきっかけに、参加者が作品を読み解き、思った事を自由に発言し、みんなで絵の世界を味わう。認知症当事者の方も、そのご家族も、あらゆる人が一緒にアートをより楽しめるプログラム。参加者の皆さんは、慣れていない鑑賞に戸惑いながらも対話しながら、作品をじっくり楽しんでいた。
場 所	ガイダンスホール、常設展示室
対 象	認知症当事者とその家族、介助者
料 金	試行実施のため無料
参加人数	4 組（関係団体からの推薦・同伴各 1 名）

<講演会「美術館×認知症」 アートリップの概要と効果>

日 時	令和 5 年 12 月 17 日（日）13:30 開場 14:00 開演
内 容	認知症のある方やそのご家族、介護者の方を対象とする対話型鑑賞プログラム「アートリップ」を、各地の美術館・福祉施設で実践されている林容子氏に、これまでの事例を踏まえたお話を伺う講演会。幅広い活動を約 1 時間にわたって説明いただき、内容の濃い時間となった。
場 所	ガイダンスホール
対 象	認知症当事者とそのご家族、介助者や施設職員など ご興味のある方どなたでも
料 金	無料
参加人数	19 名（当日受付）

<オリジナルメダルをつくろう！ー私の金メダルー>

日 時	令和 6 年 1 月 7 日（日）①13:30～15:30
内 容	スポーツをテーマとした常設展内容に合わせ、太郎さんのオリンピック関連の作品、デザインした公式メダルを鑑賞し、厚紙、金の折り紙(のり付)、イラストボードを使用してレリーフ状にしたり、鉛筆で模様を描き、自分の思いに合わせたオリジナルメダルを作成した。各参加者それぞれの工夫を凝らし、メダルづくりを楽しむ様子が伺えた。
場 所	常設展示室、ガイダンスホール
対 象	小学生から
料 金	500 円（保護者は要観覧料）
参加人数	26 名（子ども：13 名 大人：13 名）（先着順/電話受付）

＜TARO バースデーコンサート＞

日 時	令和 6 年 2 月 25 日（日）13:30 開場 14:00 開演
内 容	岡本太郎の誕生日（明治 44 年 2 月 26 日）を祝うためのコンサートを開催し、参加者に太郎の音楽にまつわるエピソードや愛好した作品等の紹介を通じ、当館や太郎作品についての理解を深め、より親しむ機会を提供するもの。今年度は、川崎市出身のサックス奏者文梨衛さん他によるジャズコンサートを開催。「枯葉」等のジャズ演奏を参加者の皆さんにお楽しみいただいた。
場 所	ギャラリースペース
対 象	どなたでも
料 金	無料（但し、椅子席 40 名分は要観覧料）
参加人数	一名 開催後記入

＜はいはい&よちよち美術館ツアー＞

日 時	令和5年 ①4月12日(水)②5月10日(水)③6月14日(水) ④9月27日(水)⑤10月18日(水)⑥11月8日(水)
内 容	令和6年 ⑦2月14日(水)⑧3月13日(水) 各日10:30～11:30 親子で一緒に鑑賞を楽しむことで、親子のコミュニケーションを図ったり、小さな子でも無理なく美術館の雰囲気を味わってもらったりすることができる鑑賞会。
場 所	ガイダンスホール～常設展示室
対 象	3か月～3才の幼児とそのご家族 先着5組
料 金	要観覧料
参加人数	①7組(子ども7名、大人5名) (先着順/電話受付) ②4組(子ども5名、大人5名) 〃 ③5組(子ども5名、大人6名) 〃 ④8組(子ども8名、大人11名) 〃 ⑤6組(子ども6名、大人13名) 〃 ⑥7組(子ども7名、大人10名) 〃 ⑦7組(子ども9名、大人7名) 〃 ⑧1組(子ども1名、大人1名) 開催後記入 〃

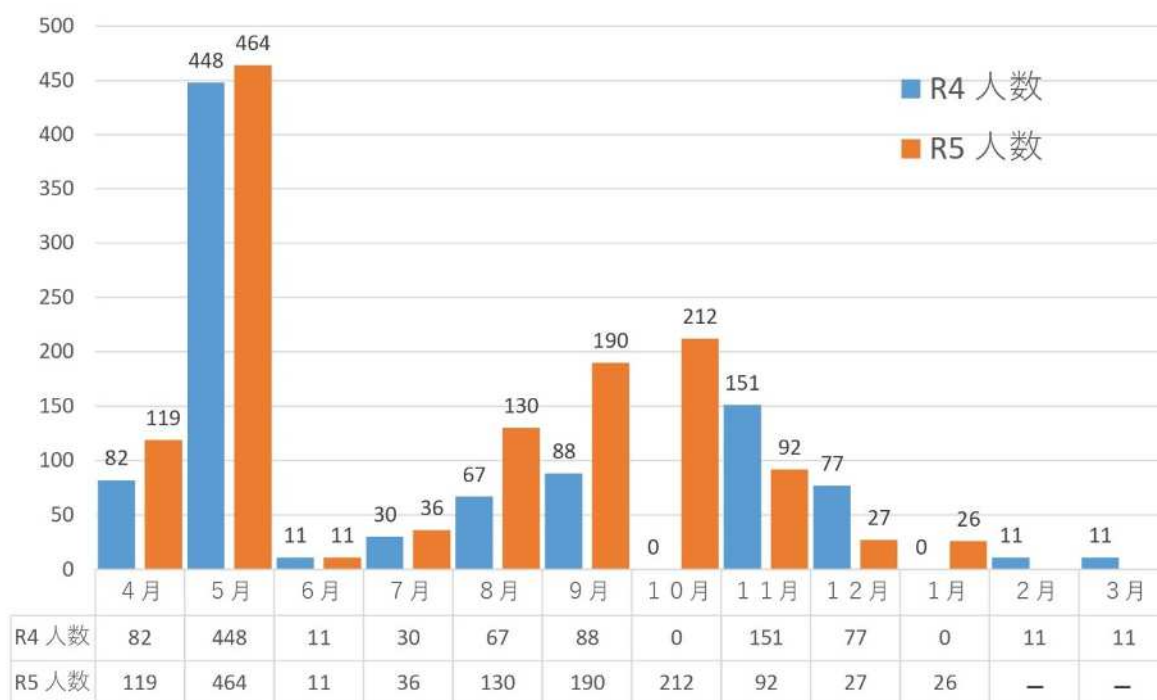
《令和5年度イベント参加者数（昨年度との比較）》

●イベント実績

	回数	総参加人数
令和4年度	23件	976人
令和5年度	31件※	1307人

※3月末見込み件数

月別イベント参加人数



※ 令和4年9月～令和5年1月までは「母の塔」前広場等の工事のため休館

[課題・反省等]

《教育プログラム》

- ・学校団体の受入れ人数に関しては、学校側の校外活動も通常になっているため、一般来館者との兼ね合いを図りつつ適切な美術鑑賞を行っている。見学団体数は、ほぼコロナ前の状況に戻っている。
- ・「職場体験」「インターンシップ」についても、コロナ前の状況に戻ってきており、夏の高校生のインターンシップの受け入れをはじめ、秋から冬にかけて中学校から数校の依頼を受け、実施した。「出張授業」については、市内中学校1校のみで実施した。今年度、長期休館期間がなく、また、学校の校外活動も増え、来館により鑑賞活動を行う学校団体が昨年度よりも増えている。また、今年度は、オンラインでの鑑賞授業を小学校2校で実施した。学校現場で行われている GIGA 端末の活用による授業の普及に合わせて、今年度の実施内容を振り返り、市外の遠方の地に向けた鑑賞プログラムの1つとして今後の活用を検討していきたい。
- ・「どこでも TARO アトリエ」など、コロナ禍で来館できない時期に実施した事業だが、現在は学校教育現場でも利用が広がっている。また、公開中のコンテンツを来館につなげるようなイベントを行い、オンライ

ンと来館を結びつける企画を実施した。オンラインコンテンツの利用を広げ、来館につなげるイベントも引き続き検討していきたい。

《普及イベント》

- ・コロナ禍を経て、最適なイベント人数を検討するようになり、イベントに応じて一日2回開催し、参加者の方が安心して参加できるようにしている。時々の展示内容に即した主旨のイベントを心がけ、外部講師によって参加者の関心を掘り下げるような意欲的な企画も実施している。
- ・ワークショップでは、顔なじみの参加者（リピーター）が増えた。
- ・小学生、子育て世代や大人に向けたイベントも企画していくが、今後は、ハンディキャップのある方に向けたイベントについても、調査・研究を行い、適切な内容について検討し内部研修をした上で実施をしていく。

[外部評価] 意見（評価できる点や課題など）[A：十分に達成 B：概ね達成 C：達成に至らず]

- ・限られた人員体制のなかでも、従来の事業に加えて学校とのオンライン授業や出張ワークショップ、認知症のある方やその家族向けプログラムに関する講演会など広範な層に向けて積極的に事業を展開し、大きな成果を上げている。
- ・じつに多様、多彩なプログラムが企画・実施されていることに敬意を表す。ただ、こうしたプログラムが企画展や常設展との関連性をより深めていかれることを望む。また逆に企画展などでの関連事業もまた普及事業なので、これらの関係性を整理し、館の各種事業の連動を、ひとつの塊として見せる工夫が必要。
- ・乳児から専門的知識を求める人まで、幅広い対象者に学びの機会を提供するプログラムを実施している点を高く評価する。特に学校については、昨年度の倍以上の参加者に対応し、次世代に太郎作品を伝えるという重要な役割を果たしている。
- ・何でもアートになる太郎美術館だからこそ教育普及活動を自由にできる、そのよい結果が現われている。
- ・展覧会にあわせたイベントのほか、学校や一般を対象にしたさまざまな普及プログラムが行われていることは高く評価できる。幼少期から美術館に親しむきっかけをつくり、将来の美術館サポーターとなるべく人をつくっていかれることを期待する。

A

5 広報活動

事業名	広報活動
目標	・館内媒体（広報誌・プレスリリース・HP・SNS等）において展覧会・開館情報を適切に発信する。 ・美術館HP・SNS等WEB媒体を積極的に発信・更新し、発信力を高める。 ・記者・他社媒体に向けて適切な表現で情報発信を行い、安全・信頼を基盤としながら、より向上的な広報活動に努める。

内容	【広報活動】 ●展覧会広報 ・展覧会プレスリリース作成・発信による新聞・雑誌・WEB への告知（郵送・メール） ・展覧会プレス内覧会の実施 ・展覧会会期中の主要マスコミへの掲載依頼、取材受付・対応 ・展覧会ポスター・チラシを他美術館等関連施設へ配布・掲示 ・小田急線各駅・JR 各駅・東急線各駅・商店街・緑地内へのポスター・チラシ配布・掲出 ・JR 南武線・鶴見線内交通広告掲出 ・近隣大学へのポスター・チラシ配架 ・近隣書店へのポスター・チラシ配架 ・武蔵小杉エリアマネージメント デジタルサイネージへのポスター掲出 ・市アゼリア広報コーナー展示の制作・掲出 ・市ホームページビジュアルエリア掲出 ・川崎駅アゼリアビジョン動画掲出 ・川崎駅東口広告塔デジタルサイネージ掲出 ・かわさき FM・ラジオ CM の収録および掲出 ●定型広報 ・広報誌「TARO ニュース」刊行 ・美術館情報のマスコミへの掲載依頼、取材受付・対応 ・館内ツールの活用による広報（美術館 HP、SNS 等、外部メディアページへの登録・配信） ※在宅コンテンツ（どこでも TARO アトリエ）の配信・利用促進（美術館 HP） ※第 27 回 岡本太郎現代芸術賞 作品募集要項・申込受付等、作成・掲出（美術館 HP）
------------------	--

内部評価(自己点検)	[実施状況・成果等] ・企画展「TARO 賞の作家Ⅲ 境界を越えて」では、TARO 賞入選作家の作品展ということから、取材記者に作家をメインに取り上げた記事の依頼や、有料広告において作家の作品を一点一点取り上げた複数ビジュアルのポスターを作成・掲出する等、作家の活動を後押しするような広報活動を行った。 ・常設展「岡本太郎とスポーツ」では、テレビ・ラジオ・新聞の取材依頼を多数いただいた。美術館内のスケジュールと連携を取りながら、円滑に対応した。 ・新たに市内広報「かわさき FM」ラジオ CM の広報を実施した。アナウンス学校出身の指定管理職員をナレーターとして起用し、館内収録でありながら高品質な音源を制作した。 ・過去に取材対応経験のあるメディアから再度取材依頼をいただいた。演者自ら取材先として希望いただいた他、ニッポン放送ラジオの収録についても次回以降実施の展覧会情報提供の希望をいただく等の実績をあげた。 ・施設・収蔵作品等の取材としてご来館いただいたメディアに対し、展覧会紹介についても掛け合った。雑誌『モード・オブティーク 56 号』、NHK・E テレ「スイッチインタビュー」等において展覧会情報も掲載・放送いただき、広報露出機会を増やした。
--------------------------	--

【SNS年間実績】

令和6年1月末日時点

	件数（年間）	リーチ数（月平均）	エンゲージメント数（月平均）	フォロワー数
Facebook	35	2242	103	1,410

- ・件数・・・・・・・・・・投稿件数
- ・リーチ数・・・・・・・・・・投稿を見たアカウント数
- ・エンゲージメント数・・・・いいね、シェア、コメント等の
- ・アクション数 アクションを行ったアカウント数
- ・インプレッション数・・・・投稿が見られた数
- ・フォロワー数・・・・・・・・フォロワー数

	件数（年間）	インプレッション数（月平均）	フォロワー数
X	526	439,435	11,441

※（旧ツイッター）

	件数（年間）	リーチ数（月平均）	アクション数（月平均）	フォロワー数
Instagram	111	6,371	976	5,695

【課題・反省等】

- ・既存の広報ツール（広報誌「TARO ニュース」・美術館 HP・オンラインコンテンツ・公式 SNS 等）を活用し、美術館従来の魅力の発信・広報に努める。
- ・情報のリリース機会や展覧会内容にあわせた広報手段を検討し、より効果的な広報活動を行なう。

【外部評価】意見（評価できる点や課題など）[A：十分に達成 B：概ね達成 C：達成に至らず]

- ・過去に取材があったメディアからの再度の依頼があるなど、美術館活動への周知に成果が上がっている。さらに、資料に添付されたアンケート結果では初めての来館者が60%を占めており、美術館の情報がタイミングよく確実に届いていると考えられる。
- ・昨今の広報活動は、従前的な発想ではまったくまかなうことができない。そうした時代の趨勢や、当然とも思われる社会的ニーズを適切に反映していると思う。今後も、正確性、適格性、即時性を重視し、できるだけ広く普及できる広報計画と、その実施を期待する。
- ・広報・広告ともに、ターゲットに合わせメディアを選択・活用し、的確な効果を上げている。
- ・さまざまな形での広報活動を展開されているが、テレビ、ラジオ、新聞のほか、SNSを活用するなど展覧会の内容あるいは来館者層にあわせた広報方法をアンケートを利用するなどしてリサーチし、実施していくことにより高い成果が得られるのではないかと思う。

A

6 施設・設備の整備

事業名	施設・設備の整備
目標	開館から24年を経過し、建物・設備が老朽化しており、施設の長寿命化及び作品の保全、市民の施設利用の利便性の向上、安全・安心の確保を図るため施設の計画的な更新・補修を行う。

内容	【計画整備・長寿命化整備】 ・ 空気熱源ヒートポンプ設備整備 ・ 非常用自家発電設備整備 ・ 自動火災報知器、非常用放送設備改修 ・ 空気調和機点検整備業務 ・ 館内照明 LED 化設備整備（展示室特殊照明を除く） 【緊急工事】 ・ アトリエ屋上防水等改修工事 ・ 空調機補修工事 ・ 防火扉改修工事 ・ 中央監視自動制御用無停電電源装置更新工事 ・ 受変電設備高圧機器（UVA）補修工事 【施設改修】 ・ 施設改修等に向けた調査、基本計画策定
------------------	---

内部評価（自己点検）
[実施状況・成果等]
今年度は、空調機器や非常用放送設備などの更新・整備を行うと同時に、展示室等特殊照明を除く照明機器の LED 化を実施し、消耗していた屋外灯や誘導灯の整備により来館者の安全性の向上、消費電力、管球交換等にかかるコストの削減にも繋げることができた。 また、開館から 24 年を経過し老朽化等により館内環境の調整が難しくなっていることから、計画的に施設の改修を進めるため、現況調査を実施し基本計画の策定を行った。
[課題・反省等]
経年劣化等を原因とする機器の不具合など緊急対応工事が増加しており、館内環境に影響を及ぼさないよう適切に対応していく必要がある。併せて、施設の計画的な維持管理や基本計画に基づく改修に向けた検討等を行っていく必要がある。

[外部評価] 意見（評価できる点や課題など）[A：十分に達成 B：概ね達成 C：達成に至らず]	
・ いつ来館しても館内外が心地よく整備されており、堅実に業務を進めていることが伺われる。 ・ 施設の老朽化は避けがたい現実だが、事務局の説明から、施設・設備の整備も適切に実施されていることと理解した。ただ、当事業にかかる経費は厩大なので、今後も整備や改修の領域においては、妥当な優先順位をつけて進めていただきたい。施設は事業の基台なので、館内の情報共有や当事業の重要性を館員皆が、ともに理解する環境整備を進めていただきたい。 ・ 作品を適切に保存・展示し、来館者が安全かつ快適に鑑賞・参加できるよう、施設の課題点や老朽化などに対して、適切に対応している。 ・ 老朽化への対応が一部実施・検討されているとのことだが、今後行われる施設改修に	A

あたっては、近年の夏の異常な暑さや大雨、台風など、これまでに経験したことのない気象に対応可能なスペックを用意するなど、よりよい展示保管環境を目指していた だきたい。	
---	--